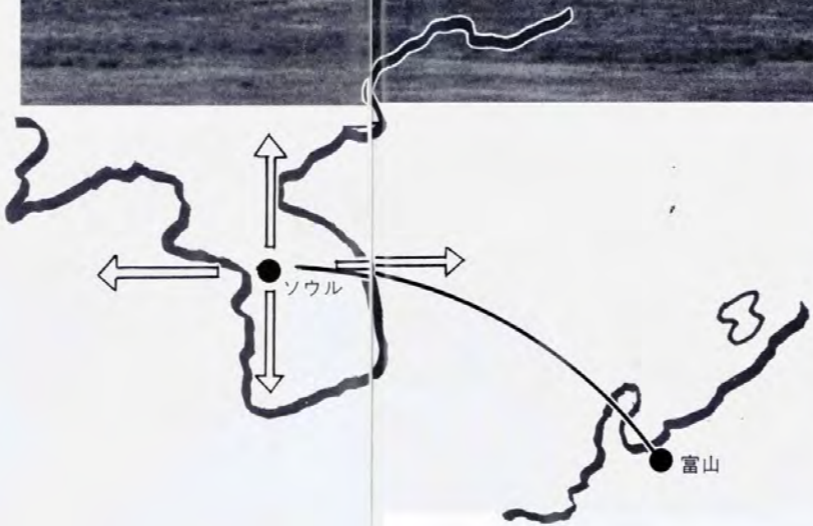


富山から世界へ 富山ーソウル便就航

環日本海時代の幕明け



現在、県では、「世界に開かれ貢献する富山県」をめざす「国際立県」を進めています。これは、諸外国との友好交流を深めながら、環日本海交流の中核拠点として発展していこうとするものであり、このため、対岸諸国の主要都市とを結ぶ環日本海航空ネットワークの形成が求められてきたところです。

その第一歩となる県内初の国際定期便が、四月二十六日、富山空港からソウルに向けて飛び立ちました。

このソウル便には、富山県の国際化の推進、また、本県と韓国を結ぶ友好の架け橋として、大きな期待が寄せられています。

○ソウルー富山定期便の概要

- 1 運航スケジュール
ソウル出発9：25 富山到着11：15
富山出発12：10 ソウル到着14：10
- 2 運航曜日 月・水・金の週3回
- 3 機種 B737-400
- 4 座席数 164席
- 5 利用料金 個人往復71,300円

●富山から世界へ、世界から富山へ——
ソウル便の開設は、単に韓国と直接つながるといっただけではありません。

韓国の金浦空港は、欧米諸国など全世界へ約三百の路線を持つアジアの中核空港の一つです。この金浦空港と国際定期便で結ばれるということは、富山空港がソウルを中継地点として世界各国と結ばれることを意味します。今後、皆さんが海外へ出かける場合は、わざわざ東京・成田空港から出発する必要がなくなり、富山から気軽に諸外国へ行けるようになります。同時に、諸外国からも直接富山に来ることが出来ます。またソウルを経由して、容易に貨物や情報を手にいれたり、送り出すことも可能になります。

●近くて近い国、韓国

現在、富山県と韓国は、経済交流をはじめ、スポーツや文化・芸術などの幅広い分野で交流を行っています。しかしこれまで「近くて遠い国」と言われてきたように本当の意味での相互理解が進んでいるかという点、そうでない面も数多く残されています。



今後、わずか百二十分で結ばれ、人・物・情報の交流を活発に行うことができるようになることから、県では、ソウルに海外事務所を開設し、富山の魅力を紹介するなど、相互理解を深めています。

●大韓民国のプロフィール

日本との最短距離は約二〇六kmと、日本から一番近い国であり、四季の変化がはっきりしている。国民性は大らかで人情に厚く、勤勉であるとともに歌と踊りを大切に的一面も併せ持つ。

かつては農業と漁業が経済の中心であったが、一九七〇年代から工業が発達。近年では重化学工

業が中心で、ソウルオリンピック等を契機に東欧圏との経済交流も急速に拡大している。教育水準は、文盲率が極めて低く、教育施設は十分整備されている。主食は、日本と同じ白米のご飯で副食としてはキムチが有名。美術、音楽、舞踊、文学等、どの分野にも伝統が生かされ、欧米の近代文化とも融合し、現代的なハイモニーを生み出しつつある。

●韓国の見どころ



景福宮 (ギョングボクン)

一九三五年に創建された朝鮮王朝の正宮。現在十数棟の殿閣が残されています。



国立中央博物館

韓国最大の博物館。韓国の伝統芸術・文化の遺産六六九〇余点が陳列されています。

他にも今年の八月から大田(テジョン)市で開催される九十三年大田世界博覧会をはじめ、ロッテワールド、韓国民俗村等で韓国の豊かな表情に出会えます。